



マジックを習得し披露することで「コミュニケーション能力を高める(神戸市中央区の「SORA」)

日本経済新聞

社員のタマゴ研修中

「みなさんはちょっとだけマジックになります。まずマジックネームを決めたいと思います」。神戸市内のオフィスで机を囲んで座った内定者約二十人に講師役の女性がこう話しかけた。

「私は『なまびし』。あだ名から採りました「僕は『マキヒロシ』です」「僕は『じやば』。マジックになる準備ができる」と一人ひとりの実演タイムが始まった。

最初は誕生日当で。裏側にいくつかの数字が示され

同僚の輪を広げる魔術

た特製カードを五枚取り出した。この中にあなたの生まれた日がありますか「あなたの誕生日は四月二十六日です。マジックの先生役を務めたのは教育コンサルティング会社、SORA(神戸市)の角本紗織社長。手を使ったマジックよりも会話を通して人の心をつかむ術が大

切と読ぐ。「マジックで引き付けるためには話術やプレゼンテーションのセンスが必要で、素顔で段取り力や洞察力、リスク管理能力も身に付けることができます」と角本社長。

SORAは新入社員や内定者向けの研修をしている。マジックは角本社長の趣味だった。簡単な手品を二年前に内定者研修で始めたところ反響が大きく、現在は請け負った研修の約半分で取り入れている。

この大手食品会社の内定

者はお互いに初対面の人も多かったが、すっかり打ち解けた様子。和気あいあいとした雰囲気であたのマジックを披露し合った。

「じやば」くんは「びっくりすることが多いぞ」とニコニコ引き込まれた」とニコニコ。

人事担当者は「採用活動から入社までいろいろな任掛けをするが、マジックを使った研修は内定者同士がコミュニケーションをとるいい機会。仲間意識が生まれるのは大変ありがたい」と手放して喜んでいた。

(おわり)

この企画は安藤秀峻、岡森章男、小林健、豊田健二郎、湯沢華織が担当しました。

夕刊
8月19日
(火曜日)

発行所 日本経済新聞社
東京本社 03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-9-5
大阪本社 06)6943-7111
名古屋支社 052)243-3311
西郡支社 092)473-3300

MORE GREEN To You

信頼の住宅資材・建材を
お届けして88年

TSUDA
津田産業株式会社

本社/大阪(TEL.06-6691-1161)
神戸・東京・名古屋・広島・福岡